

1 単元 ごみのしよりと利用

2 目標

ごみと資源の処理が、地域の人々や周りの市や町、他県などの協力を得て計画的に進められていることを理解し、自分にできることを考えて行動を宣言することができる。

3 情報の交流を行う場面と期待される効果

ごみと資源の処理について調べる学習の中で、様々なごみを減らすための活動を実際に行い、分かったことを発表し合う。学習から得た知識や実際に行った活動に対して情報の交流を行い、さらにごみを減らすより良い方法を考えることができる。

4 実践の様子

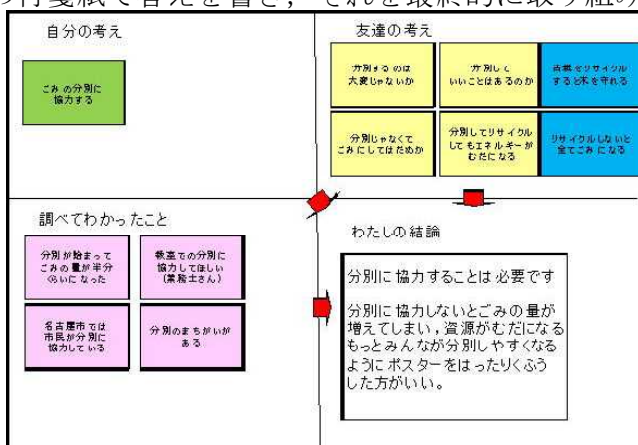
本学級には知識を得ただけで満足し、学習内容について考えをもったり、行動に生かしたりすることができない児童がいる。水道の学習において、きれいな水をつくるための大変な努力があることを知ったものの、平気で水を出したままにしていることもある。そこで、学習した内容に自分なりの考えをもち、行動に生かせるようにしたいと考えた。

ごみと資源の処理の学習を進める中で、班ごとに実際にごみの分別やごみを減らす活動に取り組みせ、活動を振り返るようにした。実際に取り組ませることで活動の効果の大きさや問題点を見付けることができた。【資料①】



資料①

また、色分けした付箋紙を使い、学習から得た知識はピンク色、友達からの意見は黄色の付箋紙にするなど、模造紙に考えをまとめて活動を改善するようにした。貼られた付箋紙を見て、同じような情報を集めて整理した。また、友達からの意見に青色の付箋紙で答えを書き、それを最終的に取り組みたい活動として考えた。情報の交流を行うことによって、実際の活動につながる意見やさらに取り組みやすい活動について考えることができた。【資料②】



資料②

5 成果と課題

- 情報の交流を行うことで、児童がごみの問題を自分の問題として捉えて、さらにごみを減らすより良い方法を考えることができた。
- 情報から活動を改善することが困難な児童もいた。もっと振り返って改善する手順を分かりやすくする必要性がある。